

増えてます

高齢者の

交通事故

高齢化社会の今日、人口に対する六十五歳以上の割合が年々増えています。それにつれて、高齢者による交通事故の死傷者数も目立って増えています。高齢者に多くみられるのは、道路横断中や自転車による事故です。悲惨な交通事故をなくすためにも高齢者の交通安全についてもう一度考えてみましょう。

歩行中は

○車が通るまで

待ってください

高齢者が歩行中に起こす交通事故の大半は自宅周辺の道路で発生しています。通り慣れているという安心感や油断が事故を引き起こすためです。また、高齢者の歩行速度は自分が思っている以上に遅いものです。このため、横断の後半にはねられるという事故が多くなっています。「まだ間に合うから」「車が止まってくれるだろう」と自分で判断することは非常に危険です。近づいてくる車があるときは、通り過ぎるのを待って渡りましょう。特に、止まっている車の直前直後や、走り去った車の直

後は、十分な安全確認ができないため、注意が必要です。

○夜間は特に注意

視界が悪い夜間は昼間以上に注意する必要があります。走って来る車のライトを発見したときは、通り過ぎるのを待ってから横断してください。また、夜間は車の運転者から発見されにくい黒っぽい服装を避け、遠くからでも自分の



存在を運転手に知らせる夜光反射材を活用しましょう。

○青信号でも左右を確認

付近に信号機や横断歩道があるときは、面倒でもそこまで行って渡りましょう。しかし、信号が青だからといって安心できません。交差点では右折車、左折車が曲がってきます。必ず自分の目で安全を確かめてから横断歩道を渡らなければいけません。

自転車では

○姿勢が大事

高齢者は自転車に乗っているとき、前かがみの姿勢になることが多く、視線が下向きになりがちです。意識的に背筋を伸ばし、顔を上げた運転姿勢で通行しましょう。

○急なとび出しは危険

自転車で歩道を通行しているとつい安心してしまいがちですが、交差している小道を横切るときや歩道から交差点に出るときは危険です。徐行や一時停止をして、必ず周囲の安全を確かめましょう。道路を横断するときも自分の目で安全を確かめ、急なとび出しは絶対にやめましょう。それから、雨の日や夜間に乗るのは避けましょう。雨の日に傘を差しながら運転するのは非常に危険です。また、夜間に乗るときは、必ずライトを点灯し、後方から車が接近してきたら、路肩に寄って車をやり過ぐすくらのゆとりも必要です。

車を運転中は

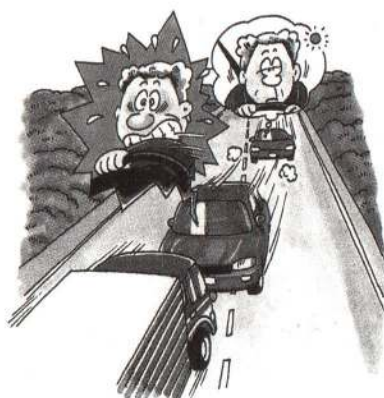
○無理をせず余裕をもって

自動車の運転では、ちよつとした判断ミスが取り返しつかない事故につながってしまいます。運転には瞬時の判断力と反射神経が必要なため、身体能力がどうしても衰えてしまう高齢者には、より慎重な運転が要求されます。なかでも、交通量が少なく、単調な直線路では、ぼんやり運転になりやすいので気をつけなければなりません。多くの死亡事故では、シートベルトを着用していれば被害を防げたというケースがみられます。シートベルトを着用することとは、安全対策として最低限のことです。

○上手に付き合う

残念なことですが、誰にでも、いつかは運転をやめなければならぬ日が来ます。家族、医師などと相談してドライバーからの引退を決心しなければなりません。今日の生活にはもはや欠かすことのできなくなった自動車。これからの長

く付き合っていくためにも常に安全運転を心掛けましょう。



大館市交通安全対策協議会

高齢者部会を設立

高齢者による死亡事故が増加しており、高齢者の交通事故防止対策が緊急の課題となっているため、六月三十日に設立されました。主に、高齢者家庭の交通安全訪問指導、高齢者を対象とした体験型交通安全講習会や街頭活動などを通じて、交通事故から身を守る運動を活発に展開します。

市民の皆様へ

夏場は ノーネクタイで

夏季の間に限り、男性職員の勤務中の服装をワイシャツにノーネクタイとさせていただきます。どうぞご理解お願いします。